

一年一心

1月号 №10
桐陽高等学校
1年部学年だより



◆心のコップを上向きに◆

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、学校は一年の締めくくりの学期、3学期を迎えます。休み中少しゆっくりした人も、お正月気分はここまでにして、気持ちをひきしめて学校生活をスタートさせましょう。

1月の行事予定

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	土	元旦		16	日	大学入学共通テスト会場	
2	日			17	月	C日課	10分短縮CW
3	月			18	火		
4	火	家庭の日		19	水		
5	水			20	木		
6	木			21	金		5分短縮CW
7	金	始業式・(英数)課題確認テスト		22	土	英検③	
8	土	指定休日		23	日	進研模試	
9	日			24	月		
10	月	成人の日		25	火		5分短縮CW
11	火	課題確認テスト	5分短縮CW	26	水		
12	水		5分短縮CW	27	木		
13	木		5分短縮CW	28	金	入試準備	
14	金	1,2限授業 共通テスト準備	10分短縮	29	土	漢検③別館実施	
15	土	大学入学共通テスト会場		30	日		
				31	月	休校措置	

11日 課題確認テスト

冬休みの課題の理解度を確認するためのテストです。日々の積み重ねの成果が表れます。

11日～13日・17日・21日・25日

コミュニケーションウィーク (CW)

担任と生徒の二者面談を行います。

(5分短縮授業)

14日 大学入学共通テスト準備

15・16日に本校を会場に行われる大学入試共通テストの準備を行います。お弁当は不要です。15・16日は敷地内立ち入り禁止になります。

17日 10分短縮C日課

職員会議のため、9時20分登校になります。特に電車通学の生徒は、時刻表を確認して、遅刻しないように気を付けてください。

28日 入試準備

2月1日・2日に行われる入学試験の会場設営を行います。お弁当は不要です。入試に伴い29日～31日まで本館と東館が、2月1日～3日まで学校敷地内が立ち入り禁止になります。

◆始めの一步は道の半ばに至る◆

タイトルの言葉は、物事を始める時は、ただ何となく始めるのではなく、目標を定め、しっかり準備をしてから始めることが大切であるという意味です。そこで1年のスタートにあたり、私が何度も読み返している文がありますので紹介したいと思います。何かの参考になれば幸いです。

「剣道が教えてくれた限界」

アナウンサー 有働由美子

「なんでこんなに練習しなければならないんだろう。もうやめよう。今日こそ絶対退部しよう。」

中学、高校と続けた剣道部で、私が例外なく毎日繰り返した言葉だった。父の錬士五段の紺の道着姿に憧れ、はじめた剣道。技が決まる、研ぎ澄まされたあの瞬間が、子供心には美しく華やかなものと思われた。しかし、現実はその甘くはない。

高校は進学校だったので、体育会系の部活動でも、そう厳しくはないだろうとふんでいた。甘かった。あまりいい言葉ではないが、血を吐くほどという、まさにそんな鍛錬(しごき)だった。

私の大きらいだった練習に「追い打ち」というものがあつた。一人が竹刀を下げ、後ろ向きに全力で下がる。それをすり足で追いつながら面打ちをする。追う方も、それが十人目位になると足も手も上がらず、すり足どころではなくなる。後ろ向きに下る方も、速度が遅いと追いつかれ、体当たりで倒される、というより突き飛ばされる。道場の端から端まで全力で往復、十五セットずつ。

これが練習冒頭、いわゆる準備体操のように行われた。練習本編の内容は、思い出しても書く手が止まるほどの厳しさで、これ以上筆が進まない。

私は二十四時間、練習から逃げることを考えていた。しかし、いったん「始め」の声がかかると「終わり」の合図が耳に届くまでは、逃げることは許されない。

この毎日の練習の中で、ある日私は発見した。

それは、自分で「ああ苦しい。もうここが限界だ。」と思ったところから、まだもう一本面を、まだもう一本小手を打てるということだ。そしてその一本こそ、その日一番の研ぎ澄まされた技になることが多かった。

自分の思う限界は、いつも人間としての限界の随分手前にある。もう一歩だけ重い足を踏み出せば、これまでの自分の持たない技を、つまり新しい可能性を見つけられる。

剣道部時代はいつも先輩が限界を超えさせてくれた。社会人になった今、逃避も自由簡単。限界に近づくことさえ自らを奮い立たせなければならない。

でも、研ぎ澄まされた美しく華やかな瞬間は、限界の向こう側にあることを私は剣の道から学んだ。逃げ出しそうになった時、私はいつもあの瞬間を思い出し、一歩だけ前に進むことにしている。

人それぞれ限界を感じる分野は違うと思いますが、令和4年が皆さんにとって、自分の新しい可能性を見つけられる年になるといいですね。私も負けずに1歩前に進みたいと思います。